

あたたかい子
かしこい子
たくましい子

学校だより

つよし

—第6号—

令和元年5月23日
平戸市立津吉小学校
文責 校長 田川定司

津吉茶市「あいあいショップ」開店

恒例の津吉茶市が明日から開催します。津吉小学校では、総合的な学習の時間に、それぞれの学年で取組を進め、茶市1日目(24日)に「あいあいショップ」を出店します。特に6年生は、本日、近隣の4事業所に分かれて職場体験を実施し、そこで作製した商品を茶市で販売します。

あいあいショップは13時から14時30分の間、開店します。津吉茶市参加を通して、働く意義や喜びを感じるとともに、ふるさと津吉に対する愛着を深めてほしいと願っています。

各学年の取組は下記のとおりです。なお、PTA生活部の皆様のバザーも開かれます。

学年	内 容
1年生	アサガオの苗の販売
2年生	ドーナツ作りと販売
3年生	育てた野菜の販売
4年生	ジャンガラのステージ発表
5年生	紙バッグの製作と販売
6年生	職場体験と商品の販売

これからの行事予定

5月24日(金) 津吉茶市「あいあいショップ」
29日(水) 宿泊学習【5年生】～30日まで
6月 4日(火) 新体力テスト【4～6年生】
10日(月) 家庭訪問～14日まで
17日(月) 心を見つめる教育週間～23日まで
プール開き・クラブ活動1回目

教育の基盤としての躰

時代や社会が大きく変わっても、『子育て』の中で変わらないもの、変えてはいけないものがあります。ある教育雑誌に掲載されていた記事を紹介します。

我が国の伝統的な独特の教育方法として躰(しつけ)がある。躰は、裁縫の「躰縫い」と同じ意味である。縫い目が狂わないように、まず仮にぎっと縫い付けていくことを言う。その後、本縫いが行われ、仕立て上がると、躰糸は抜かれ、何もなかったように見える。

教育もそうである。一人前に育て上げていくために、まず躰縫いが行われる。「おはよう、ありがとう、ごめんなさい」の「あいさつ、謝辞、おわび」はその第一歩である。躰がすっかり身に付き、ごく自然に振る舞うことができるようになると躰糸は抜かれ、自分の判断で行動を選択し、世渡りするようになる。

ところが今般、この躰に異変が生じている。一つには、「躰縫いがされていない。」そのため型が崩れてよれよれになっている。二つには、「躰糸をいくつになっても付けたまま」で、一人前になれず、指示待ち人間となったり、保護者がついていないと外も歩けなかったりする。

価値の多元化した世の中で、躰は不要だ。それぞれが育てばよいという考えが強い。そうだろうか。価値感が多様化しているだけに、社会行動の共通の基盤が不可欠ではないだろうか。

津吉小では、躰の3原則(あいさつと返事・はき物を揃える・時間を守る)を徹底指導しています。